

エが 公民館報

第 298 号

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

四賀の世帯数・人口

世帯数	1,939	世帯
人口	4,848	人
男	2,349	人
女	2,499	人

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

春の目撃取材と探検！
松本ロゲイニング開催！



多くの参加者でにぎわう四賀の里

三月二十八日に開催された『松本ロゲイニング』に、長野県内外から、八〇組一七三名の参加があり、快晴の四賀を駆ける姿が見られました。

ロゲイニングとは、二人（五人までのチームを作り、地図とコンパスを片手に時間内にポイントを回り、高得点を競うゲーム。

オリエンテーリングと違うところは、ポイントを自由に回れるところです。

参加者の六割は、東京都、静岡県、滋賀県などの県外から来られた人たちで、全国のロゲイニングに参加して回っ



ている人も多いようです。

三時間の競技を終えて、四賀支所前庭では、スタツフが用意した四賀の雑キノコたつぷりの豚汁と、四賀の産みだて卵を使った卵かけごはんが参加者をもてなします。その卵かけごはんを「うまい、うまい」と、お代わりする人が続出しました。

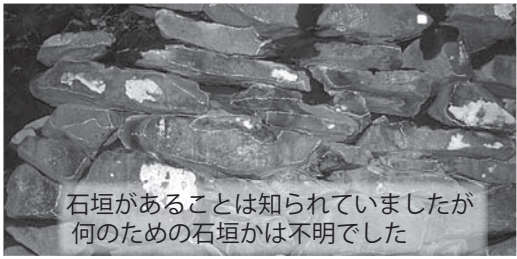


「また、来たい」と言ってくださる人もいて、何とも明るく爽やかなスポーツだと感じました。来年も『松本ロゲイニング』の開催があることを期待します。

歴史のロマン—殿村遺跡 第6次発掘報告が開催 中世の会田は…



虚空蔵山山城跡の石垣



石垣があることは知られていましたが何のための石垣かは不明でした

三月二十一日、松本市教育委員会主催の「殿村遺跡第6次発掘報告会」が開催されました。今回の発掘報告では、近世の絵図に地名が登場している「字えげ」（旧会田中学校グラウンドから広田寺に向かう中間地点）と呼ばれている場所で中世の造成後が発掘され、石積み、石列、盛土、溝や柱穴などの存在が明らかになりました。また、講師に歴史考古学を専門として活動されている水澤幸一先生を新

潟県胎内市からお迎えし、遺跡整備の先進地での中世遺跡の存在から、その整備の取組み等の講演がありました。殿村遺跡の今後のあり方に期待を持てる内容でした。

ところで、平成二十年に旧会田中学校グラウンドで発掘

が始まった殿村遺跡の調査ですが、周囲の発掘が進められ、新たな遺跡跡が発見され、会田氏の中世の姿が早く明らかにならないか待たれるところでもあります。

同時に虚空蔵山城跡でも中腹にいくつもの石垣群や、平場造成跡などが次々に明らかとなりました。遺跡の調査は膨大な時間を要するものです。中世の時代に、殿村から虚空蔵山を望み、どんな景観が見られたのであろうと思いを馳せています。

それにしても、明治・大正・昭和の近代の景観も次々と変化を遂げているはずで、記憶を語る人達がいるうちにそれも調べて、のちに世に伝えていく必要があるのではないかと、今考えています。

平成 27 年度 町会長・町内公民館長・体育部長名簿

Table with columns: 町会名, 町会長, 備考, 公民館長, 備考, 体育部長, 備考. Lists names and roles for various town associations.

四賀公民館委員

公民館事業の企画立案・運営をしていただく、四賀公民館委員の皆さんを紹介いたします。

- ◆運営委員会: 大澤好市, 山岸忍, 佐々木清夫, 市川明仁, 中嶋博, 竹内哲夫, 瀧澤正行, 和田敏昭, 山岸勝子

職員紹介

四賀地区地域センター

- 主任: 佐藤和彦, 副主任: 板花凌, 嘱託: 堀内勉, 嘱託: 中澤一雄, 嘱託: 中田将之, 嘱託: 百瀬光男, 嘱託: 小宮山秀樹, 嘱託: 中澤恵利子



四賀地区担当 清本 悠 保健師. 四賀支所にいます! 6月1日(月) 11:00~ 3:00, 7月13日(月) 11:00~ 3:00



体験教室開催

四賀公民館主催による、ストレッチとエアロビクスの体験教室が四月十六日と二十三日の両日開催されました。共催の四賀健康スポーツクラブの会員と募集に応じた計十四名が講師の寺平先生の指導で、筋肉を柔らかくし柔軟性をよくすると共にリンパの流れを良くしていきます。足からひざ、大腿筋そしてお尻さらに背筋お腹を強くほぐしていきます。普段行う事が少ないのであちこちから「痛い!」と言う声が上がります。後半のエアロビクスはエイトビートのリズムに合わせて歩く事を基本にステップの組み合わせを繰り返す運動が行われ、終る頃には汗ばみ適度な疲労感に包まれました。継続した運動習慣が大事だとの事です。

湧き水
▼桜の花も散って若々しい緑の葉が木を覆っています。桜だけではなく、山はいろんな色の若葉で埋め尽くされ、一回り大きくなって元気盛んな様子です。しかし、よく見ますと、やはり鮮やかになってきた松の林のうち、茶色になって葉も落ちかけた松が多くなってきたのが見てとれます。こんな風景は今まで見たことがありません。
▼人の作ってきたものは、家にせよ、橋にせよ、朽ちていくのは見てきました。
▼「年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず」これは人の世の無常を嘆いた詩ですが、この部分だけだと、自然は変わらないものと解釈もできるのかなと思ってしまう。でも、その自然が今、変わってきています。どうにかしようとおがいてみても、人の力の限界を知るのみです。
▼近い将来松本でミカンが栽培できるようになるという話も聞きます。良い事か悪い事かは、私にはわかりません。
▼「年年歳歳花同じからず 歳歳年年人同じからず」劉廷芝が今の世にいたら、どんな詩を詠むのでしょうか。

※ 詩全体では、自然も無常であるという表現があります。